

イスアのメタチャートの微細組織解析

Microstructural analysis of metacherts from Isua, W Greenland

増田 俊明[1], 鈴木 知陽[1], 唐沢 弥生[1]

toshiaki masuda[1], Chiaki Suzuki[2], Yayoi Karasawa[3]

[1] 静大・理・地球科学

[1] Inst. Geosci., Shizuoka Univ., [2] Institute of geosciences, Shizuoka University, [3] Institute of Geosciences, Shizuoka Univ

<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/~geo/Lab/Structure/Students/home.html>

グリーンランド、イスアで採取されたメタチャートの石英組織と角閃石による線構造の強さを調べ、地球最古の変成変形作用の特徴を検討した。石英組織は、ポリゴナルタイプからデュプレックスタイプを経てイレギュラータイプへと変成度の上昇とともに変化した。この変化は、領家変成帯で見られる変化と同じである。また角閃石の線構造のカッパー（線構造の強さを測る基準）は2～3程度の値を示し、これは三波川変成帯のカッパーと同様の値を示した。

石英組織の変化と変成温度の関係から変成作用の継続時間について検討し、イスアの変成作用は領家変成作用、春日村の接触変成作用よりも長時間の変成作用であることを論じる。